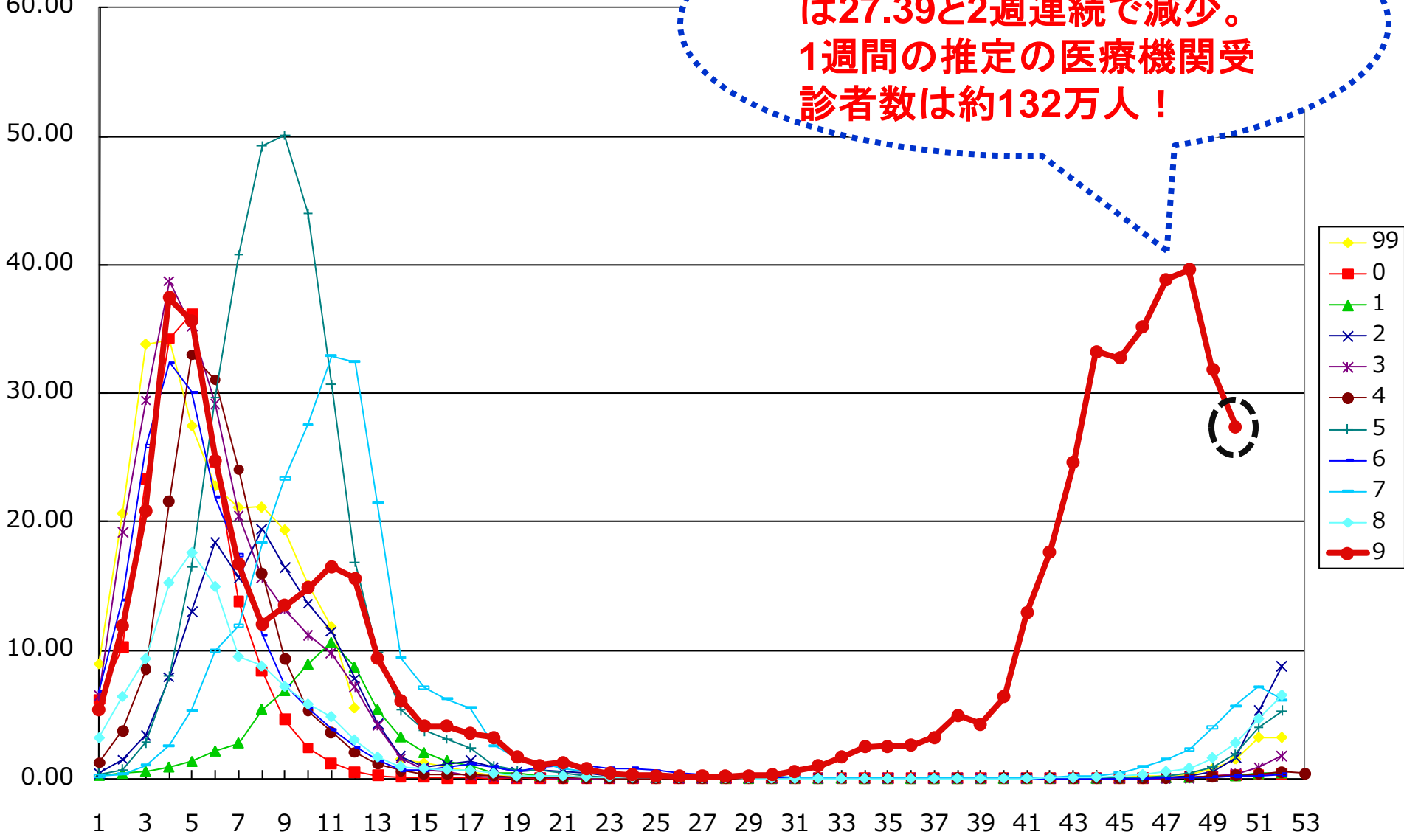


新型インフルエンザ国内発生動向 —感染症発生動向調査による— (平成21年12月18日現在)

インフルエンザの流行状況

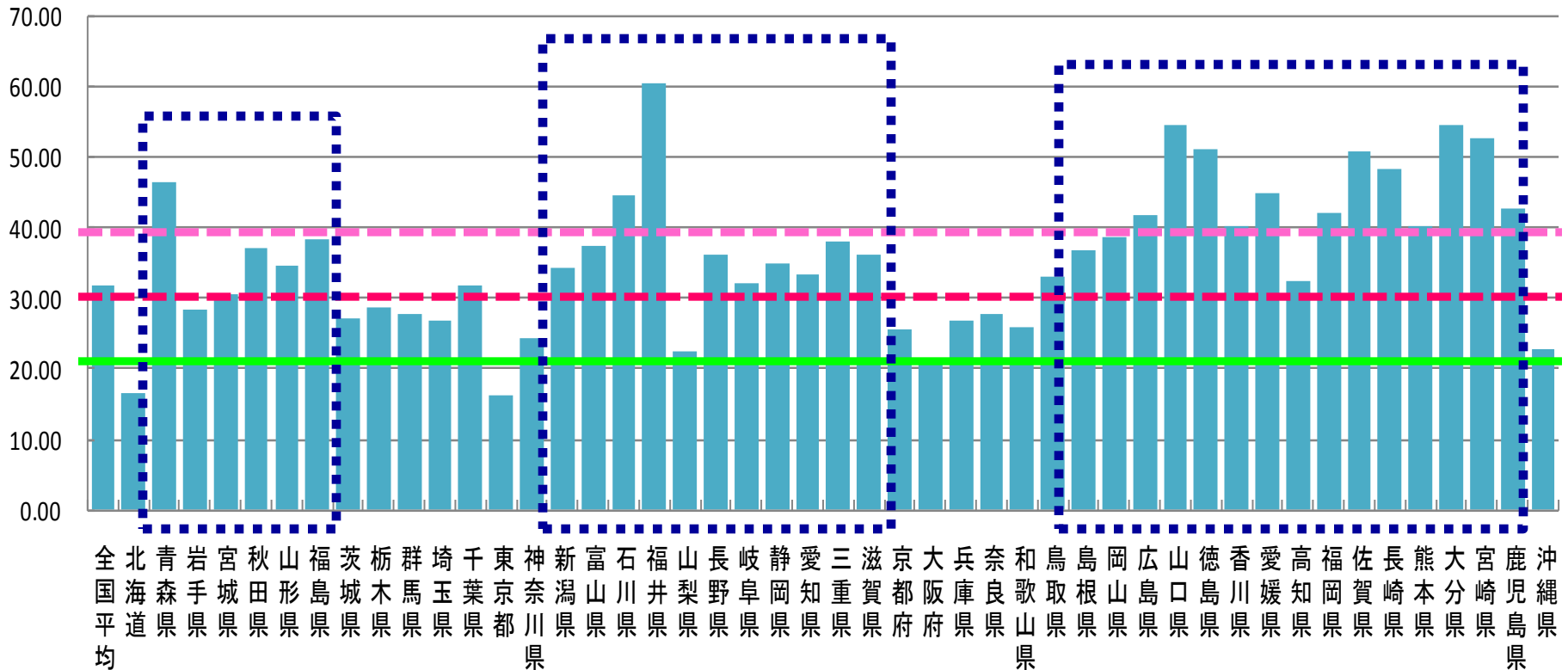
第50週の定点あたり報告数は27.39と2週連続で減少。
1週間の推定の医療機関受診者数は約132万人！

定点あたり報告数



2009年第50週インフルエンザ定点当たり 報告数都道府県別グラフ

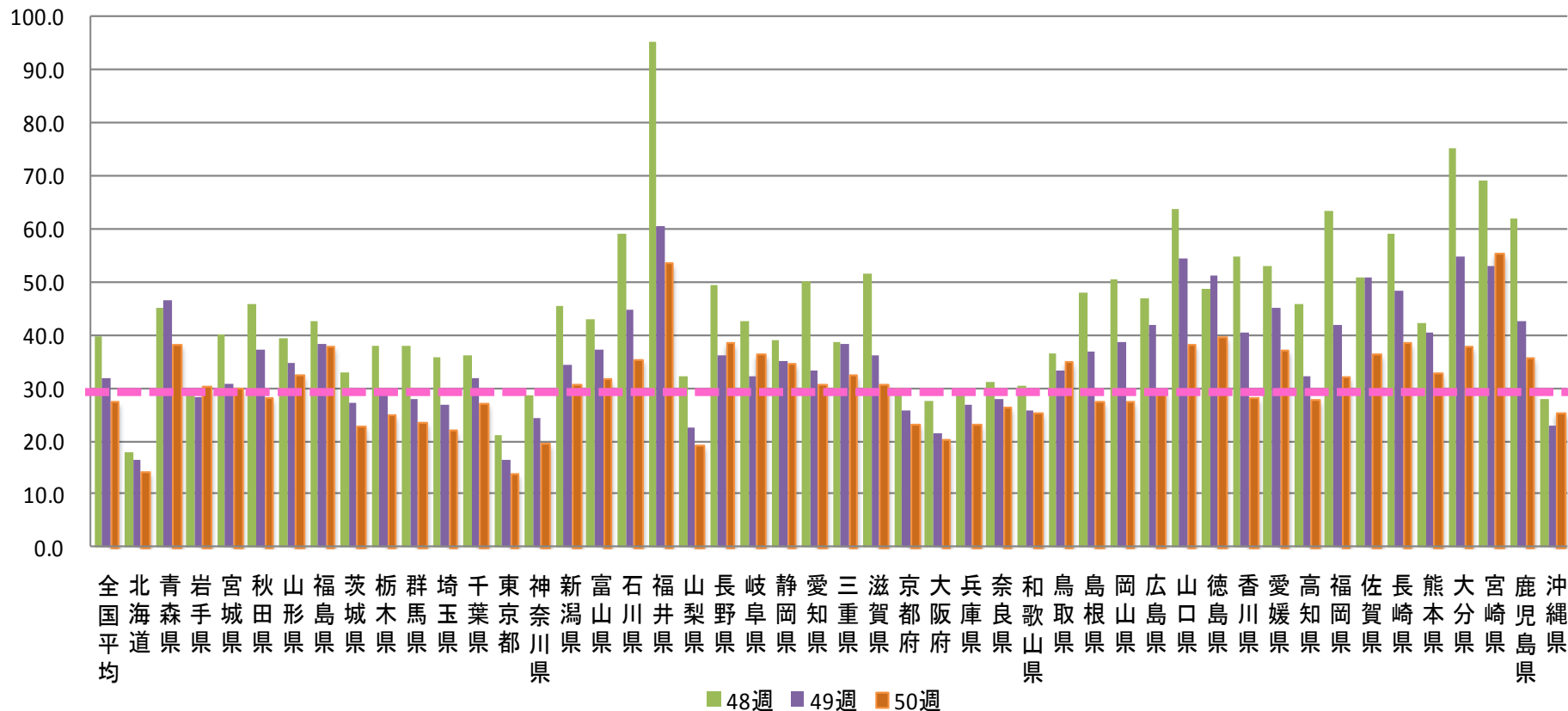
2009年第50週インフルエンザ定点当たり報告数県別グラフ



☆定点当たり報告数は、43府県で20.00を上回り、26県で30.00を上回っている。東北、中部、中国、四国、九州地域で高い値を示している県が目立つ

2009年第48・49・50週インフルエンザ定点当たり 報告数都道府県別グラフ

2009年第48～50週インフルエンザ定点当たり報告数都道府県別推移

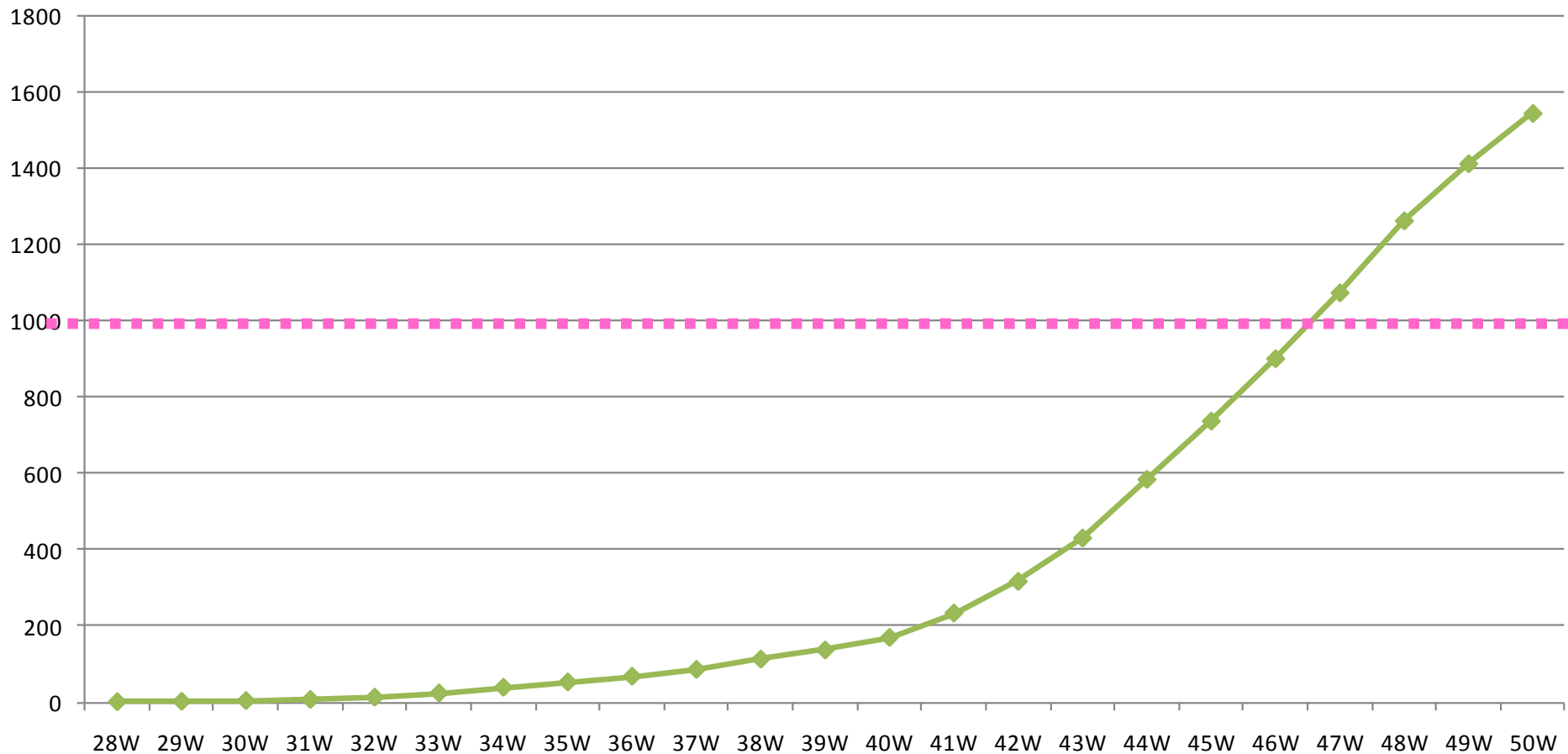


☆第49週で増加を示したのは青森県と徳島県の2県のみであった

全国の推計受診者数で見ると

インフルエンザ累積受診者数推計値週別推移 (2009年第28～50週)

インフルエンザ累積受診者数推計値週別推移(2009年第28～50週)単位:万人

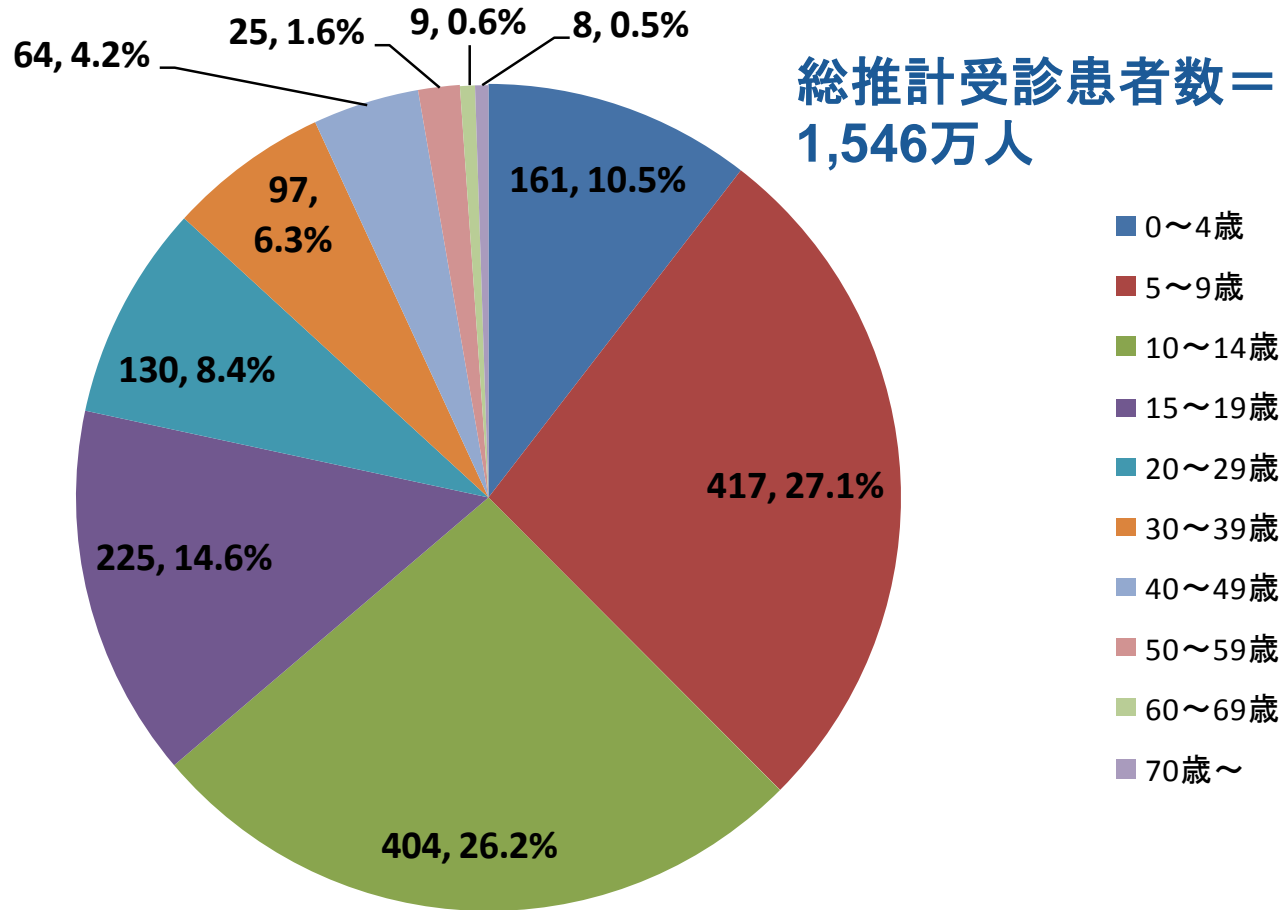


☆ 第28週以降の総計は約1,546万人！

(11月6日～12月13日)まで

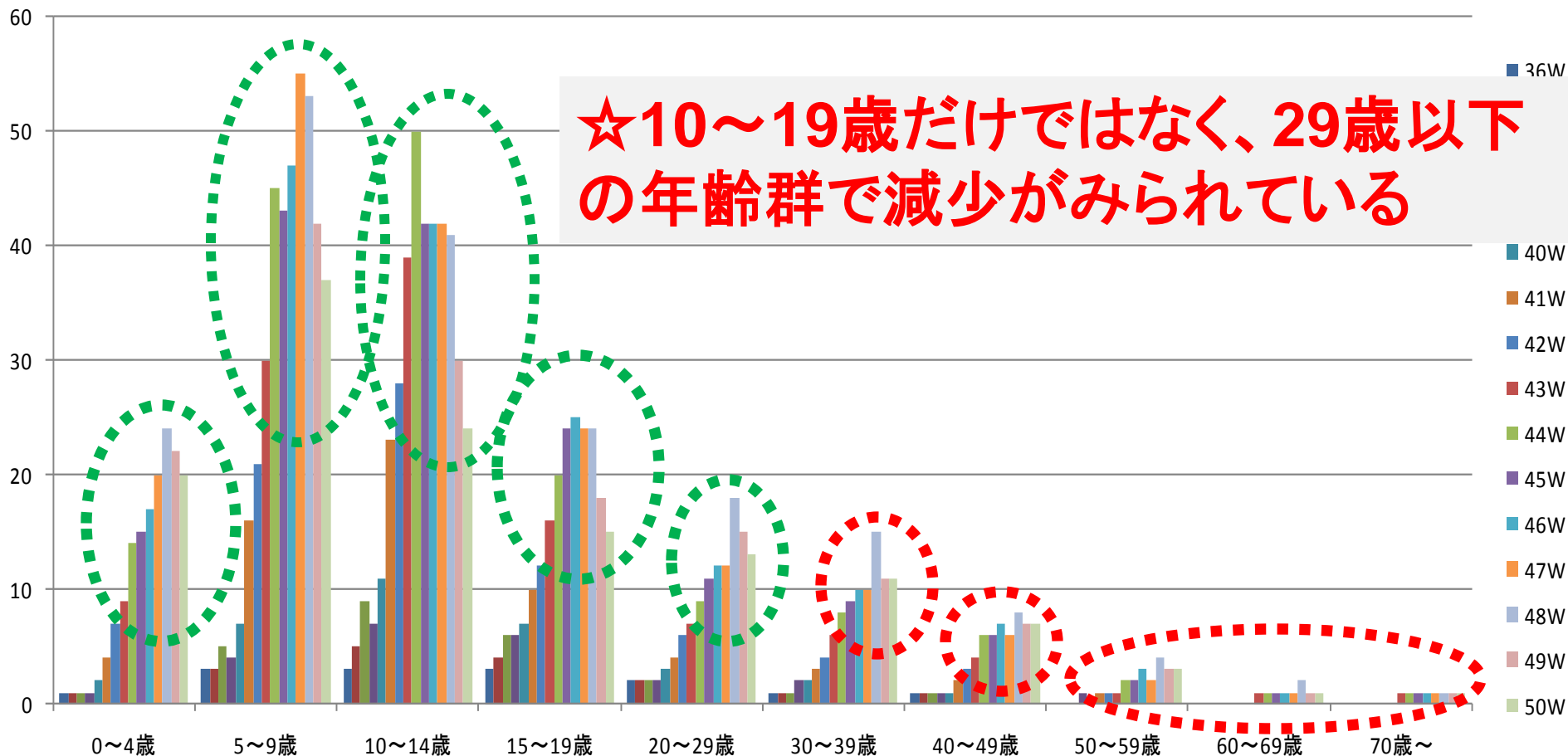
インフルエンザ全国推定受診患者数年齢群別割合 (2009年第28～50週)

2009年第28～50週インフルエンザ推計受診患者数年齢群別グラフ



インフルエンザ推計受診者数年齢群別推移 (2009年第36～50週)

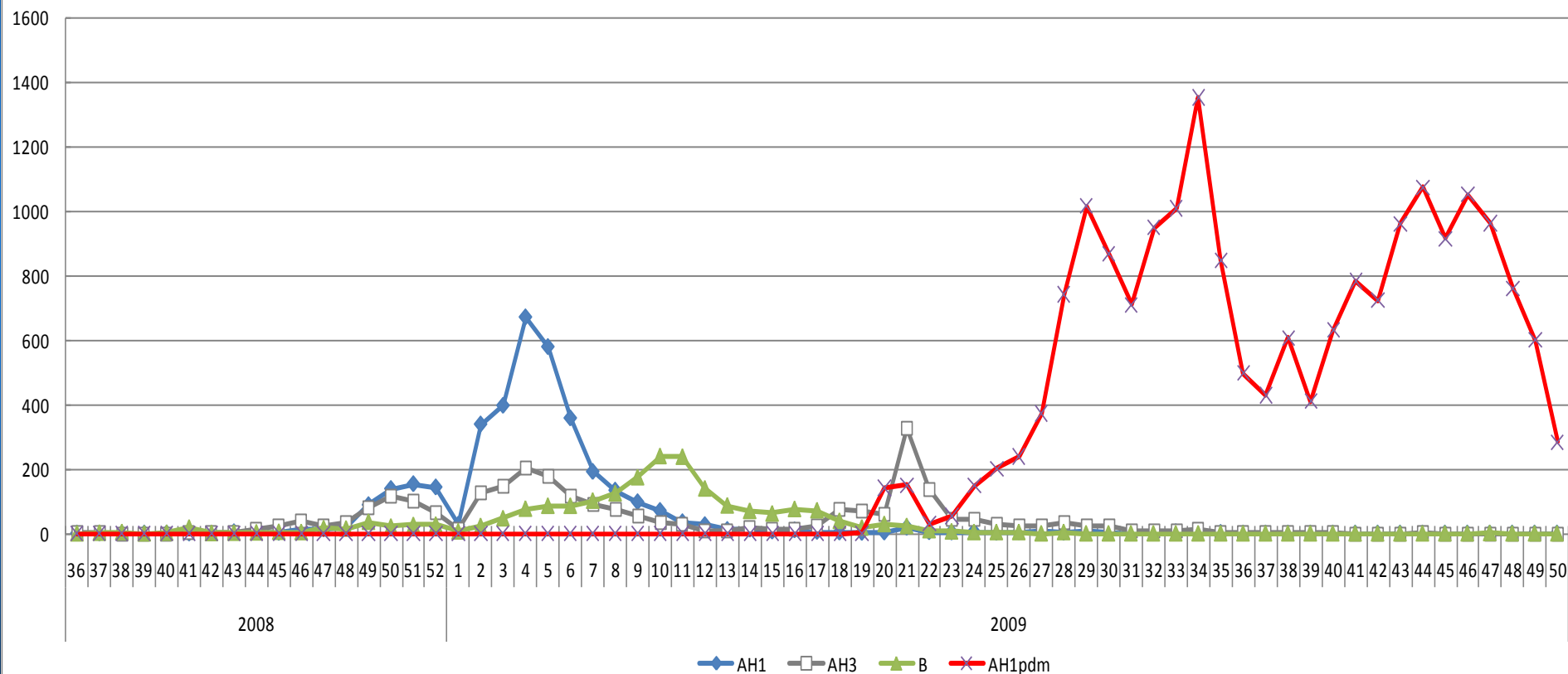
インフルエンザ推計医療機関受診者数年齢群別推移(2009年第36～50週)



インフルエンザウイルスの検出

インフルエンザウイルス検出報告週別グラフ (2008年第36～2009年第50週)

インフルエンザウイルス分離報告数週別グラフ(2008年第36～2009年第50週)

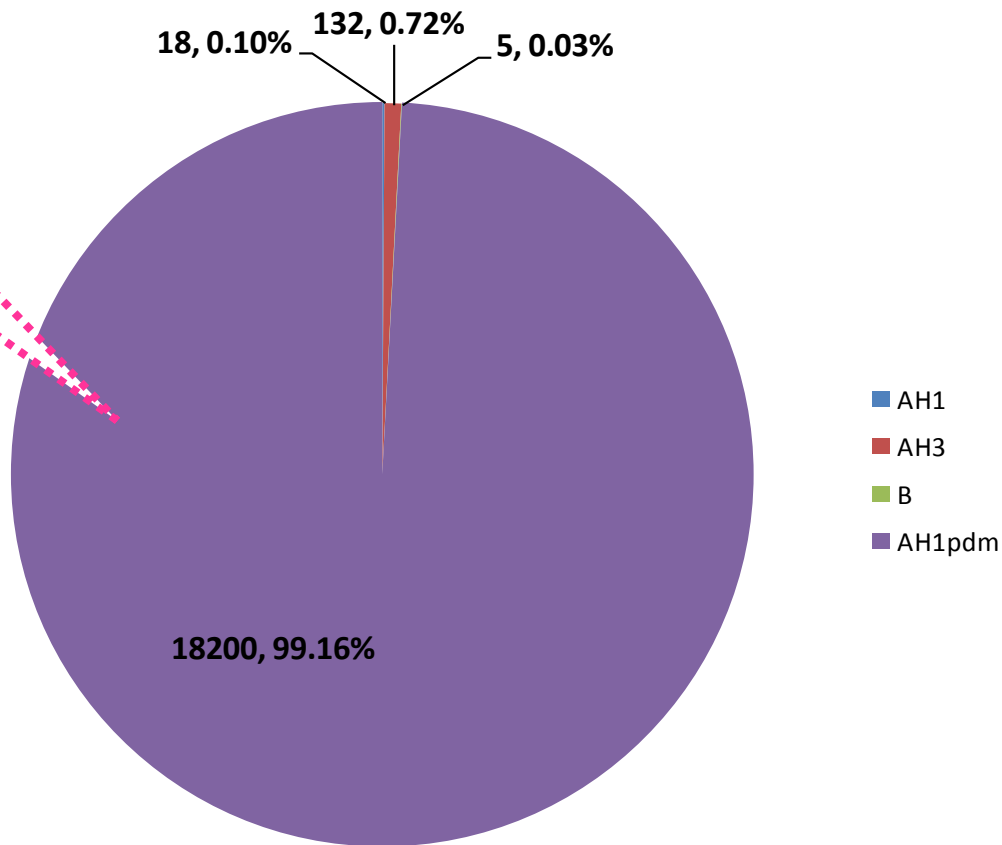


インフルエンザウイルス検出状況③

2009年(第28~50週)

インフルエンザウイルス検出報告割合(2009年第28~2009年第50週)

第28週以降
では!



総報告数 = 18,355

今後の流行まとめ①

- 2009年第50週のインフルエンザの定点当たり報告数は27.39(報告数131,972)と2週連続で減少した。都道府県別では宮崎県(55.51)、福井県(53.78)、徳島県(39.59)、長野県(38.56)、長崎県(38.51)、青森県(38.43)、山口県(38.35)、福島県(38.05)、大分県(37.83)、愛媛県(37.26)の順となっている
- 定点当たり報告数は、北海道、東京都、神奈川県、山梨県を除く43府県で20.00を上回り、26県で30.00を上回っているが、41都道府県では前週よりも減少した
- 定点医療機関からの報告数をもとに、定点以外を含む全国の医療機関を1週間に受診した患者数を推計すると約132万人と2週連続で減少し、第28週以降これまでの累積の推計患者数(暫定値)は約1,546万人(95%信頼区間:1,527万人~1,564万人)(暫定値)となった

今後の流行まとめ②

- 性別では男性約806万人(52.1%)、女性約742万人(47.9%)であり、年齢群別では5～9歳約417万人(27.1%)、10～14歳約404万人(26.2%)、15～19歳約225万人(14.6%)、0～4歳約161万人(10.5%)、20～29歳約130万人(8.4%)、30～39歳97万人(6.3%)の順となっている
- 第28週以降では、第50週までに18,355件のインフルエンザウイルスの検出が報告され、AH1亜型(Aソ連型)18件(0.10%)、AH3亜型(A香港型)132件(0.72%)、B型5件(0.03%)、AH1pdm(新型インフルエンザウイルス)18,200件(99.16%)とインフルエンザウイルスの検出報告数の大半をAH1pdmが占めており、現在国内で発生しているインフルエンザの殆どは新型インフルエンザによるものであると推定される
- 定点からの報告数は、2週連続して減少がみられ、国内の大半の都道府県では減少傾向が続いている。第28週より増加傾向となり、第33週に定点当たり報告数が1.00を超えて始まった、今回の秋季に大きな増加がみられた新型インフルエンザによる流行は、一旦はそのピークを過ぎつつあるものと考えられる。

今後の流行まとめ③

- 推計受診患者数(暫定値)の年齢群別からは、患者数の大半を占める29歳以下の年齢群において減少が続いている
- 推計の医療機関受診患者数(暫定値)は1,500万人を上回っており、人口の10%以上が罹患し、年齢群別では相当の割合で患者が発生しているところも出て来ている。特に5～9歳、10～14歳の年齢群は、不顕性感染者の存在も考慮すると、既に相当数が新型インフルエンザに対する免疫を保有している可能性があるものと考えられる
- 今後新型インフルエンザの流行は減少傾向に向かうと予想することもできるが、現時点ではまだ国民の多くが免疫を保有している状況であるとはいえないものと思われる。また、これまでは従来のインフルエンザの流行シーズンとは異なった季節における流行であり、今後インフルエンザの流行に最も適した厳冬期を迎えることを考えると、冬季休暇後には、季節性インフルエンザの流行も交えた本格的な流行が再び到来することも考慮しておく必要があるものと思われる